

第6日

令和4年9月5日（月）

午前11時15分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、5番加藤正二議員の質問を許可します。5番加藤正二議員。

（5番加藤正二君登壇）

○5番（加藤正二君） 皆様、こんにちは。5番加藤正二でございます。本日はお忙しい中、傍聴に来ていただいた方々、インターネットで御覧の皆様ありがとうございます。

今、大型台風11号が接近しております。十分に注意してください。それと、新型コロナウイルス感染の第7波は猛威を振るって全国的に蔓延しております。歯止めも効かず高止まりをしているように思いますが、最近は減少傾向になっております。今後も基本的な手洗い、マスク、密を避けることを今まで以上に徹底して、自分の身は自分で守っていくようにしましょう。

今日は筑後川水系河川整備計画案について、通告書に従い、質問席より質問を続行させていただきます。よろしく願いいたします。

（5番加藤正二君降壇）

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） 筑後川水系河川整備計画についてをお尋ねいたします。

まず最初に、桂川改修工事の進捗と見通しについてお尋ねいたします。

今年の梅雨は6月下旬頃に梅雨明け宣言が出されましたが、安心はできませんでした。平成29年の九州北部豪雨のときも同じように6月は雨が少なかったと記憶しております。今年もその後7月に入って線状降水帯に見舞われましたが、たいしたことはなく、無事被害もなかったと聞いております。安心いたしました。

桂川の改修工事についてですが、改修工事も着々と進んでおりますし、完成が待たれます。

それと、田島地区の遊水池も工事が進んでおります。田島地区の関係者の皆様には大変な御協力を頂きましてありがとうございました。心より感謝申し上げます。

桂川水系の改修工事の進捗状況と完成予定、田島地区の遊水池工事の進捗状況と完成予定をお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部付部長。

○総務部付部長（藤浩二郎君） 桂川流域の災害復旧事業の進捗状況と完成予定につきましてお答えいたします。

平成29年7月九州北部豪雨で甚大な被害を受けた河川につきましては、再度災害の防止及び軽減を目的に、緊急的かつ集中的に治水機能を強化する改良復旧工事を、国土交通省が平成29年12月に策定いたしました九州北部豪雨緊急治水対策プロジェクト、これに基づ

きまして実施をしております。

桂川流域では、浸水約800戸という甚大な被害が発生したため、支川であります荷原川、新立川、妙見川を含めた4河川につきまして、河道の拡幅や河床の掘削、あと築堤及び護岸整備などに加えまして、遊水池整備の治水対策も計画されております。

このプロジェクトにより実施しております桂川流域の災害復旧事業の進捗状況と完成予定について、河川ごとに説明のほうをさせていただきます。

まず、桂川についてでございますが、計画しております河道断面の確保は完了しております、橋梁や井堰、堤防、道路などの整備を実施中の状況でございます、令和5年度の出水期までに完了の予定でございます。

また、下流部におきましては、災害復旧事業に併せまして堤防かさ上げ工事を実施している状況でございます。

次に、荷原川についてでございますが、一部区間で河川の拡幅工事を実施中の状況でございます、こちらにつきましては、令和5年度内に完了の予定でございます。

次に、新立川についてでございます。河川内の工事は完了している状況でございます、周辺整備を実施中の状況でございます。

次に、妙見川についてでございます。一部区間で河川の拡幅工事を実施中の状況でございます、こちらにつきましては、令和5年の出水期までに完了の予定でございます。

最後に、田島地区で整備中の遊水池についてでございますが、既に洪水調節機能が発揮できる状況でございます、今後は遊水池内の防草対策などの工事が予定されております。

今説明いたしました事業はいずれも福岡県で実施されておまして、今後も福岡県と連携を図り、早期の完成に努めてまいります。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

2番に入ります。

佐田川の河川整備計画についてですが、パブリックコメントとその反映についてですが、佐田川の河川整備計画の概要が説明されました。

九州地方整備局から皆様の御意見をお聞かせくださいということで、6月2日から6月24日までの期間での意見募集があり、公聴会も6月15日、ピーポート中ホールでありました。

今後のスケジュール案では、意見を取りまとめて河川整備計画案を学識懇談会に提案するように書いてありますが、意見書は何件ぐらいあったのか。どのような方法で吟味され、意見が反映されるのか分かれば教えていただきたいと思います。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 議員申されました筑後川水系河川整備計画につきましては、5月31日に計画変更原案が公表されて以降、住民の意見を聞く手続が行われたところ

でございます。

意見の徴収方法は、多方面からの意見を徴収する方法として、1つにはインターネットによる意見募集、2つ目が住民説明会の開催、それから3つ目が公聴会の開催、4つ目が意見箱による意見徴収、こういったものが行われました。

これらによります意見募集では、191件の意見が出されておりまして、国土交通省のホームページでこれが公開をされております。

意見内容について、筑後川河川事務所から報告を受けておりますところでは、意見募集は筑後川流域全域で実施をされております、件数をこれ地域別で見ますと、朝倉市民が全体の80%を占めているとのことでした。

意見の内容としましては、治水に関するものが全体の約65%、維持管理に関するものが約30%となっております。

主な意見としましては、堆積土砂の撤去や内水対策、気候変動を考慮した整備、それから流域治水の取組の推進、河川環境及び景観に配慮した整備などでした。

また、学識者からの意見につきましては、ダムの流木捕捉効果や、治水容量と利水容量のフレキシブルな融通を記載すべきなどといった意見が出されているようでございます。

この意見の反映につきましては、筑後川学識者懇談会や、その後の事業採択時評価などにおいて審議をされているというふう聞いております。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） ありがとうございます。

次の質問に移ります。

長田川の排水についてです。前回の私の一般質問の中でも言ってきましたが、長田川の排水は、現在、佐田川の下をサイフォンで排水する方法であります。排水能力を高めるため、サイフォンでの排水ではなく、直接、佐田川に排水すれば排水能力は上がり、内水反乱も軽減できるものと思っております。

今回示された河川整備計画案では長田川は触れられていませんが、どのような経過になっているのか教えてください。

整備計画案が出来上がったならば、修正はなかなか困難になってくると思われまので、この直接佐田川に排水する意見を関係機関との協議の折には強く要望をしていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 佐田川の長田川周辺につきましては、平成30年3月の河川整備計画変更で決定された築堤を実施する区間ではありますが、本市は平成29年九州北部豪雨災害以降、長田川の排水機能を高めて、周辺の浸水被害軽減に努めてもらいたいと長田川の河川管理者であります福岡県や国土交通省に強く働きかけてまいりました。今回の河川整備計画策定の議論の中でもそのことは重視してきたところでございます。

長田川に関する本市と筑後川河川事務所との協議におきましては、同事務所は長田川の  
内水対策については、福岡県土整備部及び農林水産部や朝倉市などと連携し協議を行う必  
要があるとしておりまして、佐田川の築堤工事に先立って、長田川サイフォン周辺の整備  
方法について、協議の中で強く要望をしていく考えでございます。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） どうぞよろしくお願いいたします。

次に、河道掘削についてですが、固定堰上流の部分について3か所の区域で実施される  
と聞いております。堆積土砂は佐田川全域にわたっており、草は生い茂っていますし、河  
道は狭くなっております。堆積土砂というより、もう今、島みたいに感じます。佐田川流  
域の住民の方は目に見える堆積土砂を除去してもらったら、佐田川の整備計画が始まって  
よかったと、今から安心して生活できると思われるのではないのでしょうか。

桂川の改修工事の時、これはもう現在も続いておりますが、川幅が広くなり、浚渫工事  
が進んでいくと、元の堆積土砂の跡を橋脚の部分で見ますと、随分、掘削したというのが  
はっきり分かります。地域住民の方もこれなら今までとはかなり違うだろうなと思われた  
はずです。佐田川の河川整備計画での掘削は全体のほんの一部です。これでは流域の住民  
の方には整備効果は伝わらないのではないかと思います。下流域では堤防のかさ上げや築  
堤も計画されているみたいですが、このように目に見える工事をしてもらいたいと思いま  
す。

学術的に掘削工事は3か所で大丈夫なんだと、十分であるという根拠があればきちり  
と地域住民の方に説明をしていただきたいと思います。まだまだ具体的な計画案はこれか  
らだと思いますが、これの計画案が決定する前に強く要望していただきたいと思いま  
す。これについてはいかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） このことにつきましては、河川整備につきましては地域の  
協力が必要、重要というふうに考えておりまして、事業者でございます筑後川河川事務  
所には丁寧な説明を行うように求めてまいりたいと思います。

掘削工事関係の協議において、河川事務所は、河川整備計画とは別に堆積している土砂  
については二次掘削にて対応するというふうにはしているところでありまして、今年の出水  
期終了後にも土砂撤去が実施される予定であると聞いております。今後も引き続き必要箇  
所を協議していく考えでございます。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） よろしく願いしておきます。

次に、筑後川本川の河川水位についてです。

桂川の改修工事が終了し、田島地区の遊水池も完成しましたならば、その効果が期待さ  
れます。それと、今後進められていく佐田川の整備計画には、寺内ダムの洪水調節機能の

強化を実施するとあります。今までは、梅雨の時期も佐田川は寺内ダムで調節するから大丈夫と聞いていました。平成29年の九州北部豪雨の時も心配しましたが、最後の最後まで寺内ダムの放流を控えていただき、佐田川流域の災害は発生しませんでした。寺内ダムの操作をされた水資源機構の方々に感謝いたします。後で説明を聞くと、緊急放流していたら、金丸橋付近では今の堤防の約1メートルぐらいの高さまでに達し、流域は大災害だっただろうと思います。

平成29年の九州北部豪雨の状況を踏まえての治水安全度を確保するため、現行の整備計画に必要なメニューを追加し、河川整備計画の一部を変更すると聞いております。

桂川の改修工事が完了し、佐田川の河川整備計画が完了しても、筑後川本川の水位が下がらなければ、内水反乱になり災害が発生します。筑後川本川の水位が低下すれば、当たり前のように水は低いところに流れるわけですから排水能力は上がります。

近年の久留米市とかの内水反乱も支川の水位が上がってきて、排水ポンプで排水してあると思いますが、筑後川本川の水位が下がらず、排水ポンプの操作停止の指示が河川管理事務所からあるそうです。その後は支川の水位は上がるばかりで、内水反乱に至ってしまいます。これも筑後川本川の水位が低ければ、災害の軽減にはなるはずですが。

近年の豪雨による洪水は、筑後川の河川水位を急激に上昇させていると感じていますが、筑後川の河川水位の上昇を抑える、筑後川本川での抜本的な対策が必要ではないかと考えますが、朝倉市はどのように考えているのか伺います。筑後川本川の浚渫をしてもらい、筑後川本川の水位を下げることも効果的だと感じております。

筑後川水系河川整備の中にも、内水対策の項目で本川の水位を低下させ、支川からの排水をやすくすることで内水反乱の被害軽減につなげる取組などの治水対策の推進を行うと書いてありますが、いわゆる流域治水として地域の取組に委ねるのではなく、筑後川本川の治水計画増強の検討が必要と考えますが、市長はどのように思っておられるのかお尋ねします。よろしく申し上げます。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 筑後川本川の荒瀬地点や片ノ瀬地点の河川水位が、令和2年7月の洪水で観測史上最高水位を記録したと聞いております。支川である桂川沿川でも筑後川本川の影響と重なって浸水被害が発生したところでもあります。極めて夜半過ぎのことでありましたので、現場では緊迫した状況が続きました。地元の皆さん方、そしてまた議員さんもそうでありますけれども、連絡を取り合いながら、そして本市の災害対策の幹部責任者が現地に行って地元の人とやり取りをしながら、大変困難な状況をどうにか乗り越えたということでもあります。内水反乱が発生をしまして、家屋が浸水したといったのが令和2年7月の状況でございました。

近年、豪雨が頻発をしております。筑後川の中流域に位置する本市の防災においては、特に筑後川上流域での降雨状況と、筑後川の河川水位の動向を常に注視せざるを得ない状

況にあります。それは、筑後川に合流する桂川などの支川水位と筑後川本川水位の上昇が重なり、支川堤防からの越水や溢水による浸水被害となっているからであります。桂川や佐田川の河川改修が進めば越水や溢水は軽減されると聞いておりますが、内水被害については私どもも大変心配をするところでございます。内水対策については、地域の声を聞きながら福岡県と一緒にになって施策、実施について検討を進めております。

筑後川の流域にある本市は、洪水対策としては、河川水位上昇を制御する整備が必要であるとの認識から、寺内ダムや小石原川ダム事業を推進してまいりました。筑後川本川水位の上昇を制御するため、筑後川上流でのさらなる洪水調節施設や堆積土砂の撤去についても、国土交通省には力強く推進してもらおうよう働きかけをやってまいります。しっかり取り組んでいく決意でございます。

○議長（半田雄三君） 5番加藤議員。

○5番（加藤正二君） どうぞよろしくお願いいたします。

筑後川中流域に住む私たちは、筑後川本川と佐田川、桂川等の支川の河川水位が一番気になります。豪雨災害が頻発、激甚化しています。温暖化現象を踏まえた筑後川本川の治水機能強化の検討に着手されるよう、朝倉市としても国土交通省に強く働きかけてほしいということを強くお願いいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（半田雄三君） 5番加藤正二議員の質問は終わりました。

本日の一般質問順位の3番目、2番徳永秀俊議員から一般質問の辞退の申出がっておりますので、申し合わせにより、この間60分間休憩いたします。

暫時休憩いたします。午後2時に再開いたします。

午前11時44分休憩